

鳴門教育大学 学校教育実践研究

第 1 号

国立大学法人 鳴門教育大学

鳴門教育大学  
学校教育実践研究  
第 1 号

*Naruto University of Education Forum for Teaching Practice, No. 1*

国立大学法人 鳴門教育大学

National University Corporation Naruto University of Education

鳴門教育大学 学校教育実践研究 第 1 号  
Naruto University of Education  
Forum for Teaching Practice, No.1

---

発行 令和 6 年 3 月

発行者 国立大学法人 鳴門教育大学

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島 748

電話 (088)687-6692

F A X (088)687-6107

---

---

# 鳴門教育大学 学校教育実践研究 第1号

---

Naruto University of Education Forum for Teaching Practice, No.1

## 目 次

波の基本的性質の理解において物理基礎学習者が直面する課題 —アンケート調査と授業実践から—	川崎友紀子, 寺島幸生	1
高校生が諸外国の理科・数学を英語で学ぶ理数科授業の有用性	寺島幸生, 武田清, 中村英幸	9
Science Classes in English at a Super Science High School: Separation of Daily Mixtures and Detection of Protein in Foods	SAGAR Meenal Yashna, JAMO Deila Tely Gediao, LI Ying, SHI Weina, BANZE Alaudino Siquice, KOUJOUTE Najat, HIRATA Eri, TERASHIMA Yukio, TAKEDA Kiyoshi	17
教科固有のアプローチに着目した教科等横断的な学習の試み: 「だし」をテーマとした 家庭科・社会科・理科の授業づくりを事例に	井上奈穂, 速水多佳子, 胸組虎胤	25
家庭科における日本の生活文化の継承に関する授業開発 —「初等家庭科教育論」の実践を通して—	速水多佳子, 福井典代	35
学習者との共同的な体育の教材開発が大学生の教材観に与える影響	齋藤祐一, 南隆尚, 綿引勝美, 田中直人	43
特別支援教育におけるキャリア発達支援 —ライフキャリア教育プログラムに関わる授業づくり—	大谷博俊, 岡田直人	53
特別支援学校における授業実践の分析 —子どもの主体性を発揮できる環境整備をめざして—	橋本明香里, 中川進也, 上久人未, 佐藤和彦, 高原光恵	63
知的障害生徒における「人間関係の形成」を目的としたうつ伏せ体操の取組	藤澤憲, 高橋眞琴, 田中淳一	75
知肢併置特別支援学校に在籍する生徒へのストレスコーピング	藤澤憲, 高橋眞琴, 田中淳一	85
子どもたちの主体性を育む「遊び」や保育の「しかけ」に関する実践研究 —手遊び・リトミック遊び・わらべ歌遊びにおける異年齢保育の事例を通して—	赤川陽子, 木村直子	93

幼稚園教育要領と小学校学習指導要領における「動詞」の検討 .....	勢井香菜子, 湯地宏樹.....	103
4歳児の土・泥・砂に関わる遊びについての検討.....	中川欣子, 塩路晶子.....	111
保育者や学生は非認知的能力をどう捉えているか.....	山下真由, 湯地宏樹.....	125
中学校における心理教育的援助サービスを踏まえた特別支援教育の取組 .....	浅井義邦, 池田誠喜.....	137
小学生のエンゲージメントを高めるための授業の工夫 .....	大久保光弘, 齊藤想能美, 池田誠喜.....	145
教育相談コーディネーター機能と活動及び育成課題 .....	澤田智子, 齊藤想能美, 池田誠喜.....	153
学校心理学を活用した感情の調整を課題とした児童に対する教育援助 .....	齊藤想能美.....	161
中学校が教育支援センター・SCと連携した不登校支援のあり方 .....	澤田創, 小坂浩嗣, 北濱亮.....	167
Gifted者のキャリア決定に関する研究の動向.....	熊谷歩南, 小倉正義.....	175
小学校低学年版「本当の自己肯定感の育成」プログラムの適用可能性と予備的效果検証 .....	山崎勝之, 内田香奈子.....	183

## 創刊の辞

鳴門教育大学は、このたび新しい研究紀要として『鳴門教育大学学校教育実践研究』を創刊いたしました。本誌は、学校教育をめぐる諸課題について教育に関わる専門諸科学の知見から多面的・多角的に考察してきた『鳴門教育大学学校教育研究紀要』（地域連携センター編、雑誌名の改題を経ながら通算 37 号まで刊行）と本学のファカルティ・ディベロップメント（FD）機能を担いつつ教員養成大学の教育・授業の在り方を実践の事実に基づいて探究してきた『鳴門教育大学授業実践研究』（学部・大学院教務委員会編、通算 22 号まで刊行）を統合する形で公刊されるものです。編集は、学部・大学院教務委員会が担います。

本誌は、学校・学級経営、生徒指導、特別支援教育、幼児教育、教科教育、教科領域横断的教育、心理発達支援、教育方法、教師教育等の多様な専門領域から学校教育に関わる実践を基盤とした教育研究の成果を本学から発信することを目指しています。私なりに捉えるより本質的な目的を言えば、本誌を通じて、学校教育実践を対象とした教育研究の在り方や方法について語り合うひとつのフォーラムをつくり出すことです。

近年の学校・子ども・教師をめぐる教育現場の多様化は、（よりよいと研究者が考える）一般的な理論とその実践化をめざした研究の語り方だけでは捉えきれない実態を生み出しています。学校教育実践のさらなる質の向上、より広汎な他者との実践の共有、学校・子ども・教師のためのよりよい実践の拡大をめざして、教育実践の語り方をめぐる方法論の再構築が求められています。

それは、特定の教育理論や方法論の優位性を語り、学校・子ども・教師に「選択すべき」と迫る語り方ではありません。研究者と学校教育の実践者との協働・対話・省察を通じて実践を創造するプロセスを描き出すとともに、前提とした教育理論の再構築を図るような語り方、そして学校教育実践に関わる（研究者・実践者・学生等から成る）研究共同体の研究力や教育実践力の向上につながるような語り方です。研究主体に視点をおいて言い換えれば、三人称（およそ一般に教育とは、授業とは、実践とは・・・）の語り方から、学校教育の様々な場面で展開する教育実践に対する「こだわり」、「状況をめぐる葛藤」、「乗り越え方」をめぐる一人称（私の教育とは、授業とは、実践とは・・・）あるいは二人称（あなたの教育とは、授業とは、実践とは・・・）の語り方への転換です。学校教育実践に関わる多様な人々の関わりの見える語り方と言ってもよいかもしれません。

本誌の創刊は、学校教育に関わる学術研究への貢献と学校教育実践への寄与という観点から、学校教育実践研究の新展開を模索していこうとする一つの試みです。こうした本誌の目的と特色・意義を踏まえ、本学の新しい研究紀要を大きく育てていただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、創刊号に寄稿いただきました本学教員並びに共同研究者の皆様、また刊行にあたり、編集過程で多大なるお力添えをいただいた編集専門委員会委員、ならびに事務局の皆様にご心よりお礼申し上げます。

2024 年 3 月

鳴門教育大学理事・副学長  
梅津 正美